

- (会社) 災害等で出来るだけ早く避難誘導が必要な場合には、中間運転台でのドア扱いは必要である。視点はあるのか。
- (会社) 視点はある。現場の車掌の判断でドア扱いを行う。
- (組合) これまで車掌が行っていた安全確認が出来なくなるのでは、安全性が向上しない。
- (会社) これまでと同様な確認はできる。
- (組合) 基本動作の違いは。
- (会社) 状態監視中に適宜後方を見る。ドア扱いの際には前方、ITV、後方の3箇所を確認してもらう。
- (組合) 確認が複雑になる懸念がある。
- (会社) 基本が身についていれば混乱することはない。
- (組合) 安全確保は出来るのか。
- (会社) もちろん。実際にドア扱いは行っていないが現地で確認はしている。
- (組合) 実施ありきではないか究極の安全からかけ離れている。現地でドア扱いを行い教育するべき。
- (会社) 強制ではない。車掌業務の不安解消のため行う。現地でドア扱いを行うことは必要ないと考えている。
- (組合) **現地でドア扱いをしない根拠がはっきりしない。少しでも問題や課題を減らしていくことがこれまでの安全議論、逆行している。**

6. 乗務効率が向上している中で安全性、社員の健康の観点から各線区における食事・睡眠を目的とした乗務の中断を拡大すること。

回答: 乗務割交番作成規程に基づき作成している。

- (組合) 食事時間、睡眠時間は拡大されたのか。
- (会社) 拡大できる所は行路の持ち替えを行った。
- (組合) 会社として睡眠の重要性はどのように捉えているのか。
- (会社) 規定だから良いわけではなく、他支社と持ち替えを行っている。減らすための行路作成ではなく、拡大に向けて勉強している。
- (組合) 睡眠時間については乗務効率が上がる中、規定以外に睡眠についての科学的根拠も今後視点として考えるべき。
- (会社) 互いに勉強しながらやっていきたい。

7. 各線区における労働環境の向上を図り、必要な設備については現場の声を反映させ速やかに整備を行うこと。

回答: 必要な設備の整備は実施している。また、他支社の設備については関係箇所に伝えていく。

- (組合) 小机駅の寝室湿気改善については。
- (会社) 予算の関係があるが移設や建て替えを含めて検討中。現段階では除湿機やエアコンを使用している。
- (会社) 現地を見に行ったが密にはなっていなかった。蒲田駅詰め所に関しての意見は現在のところ上がっていない。
- (組合) 南行詰所を利用したいが密を避けるために、時間がない中他の詰所を利用している。
- (会社) 社員の協力はあっている。社員の声として上げてほしい。意見として東京支社に伝える。
- (組合) 健康を推進している企業だが、外で一般の方と一緒にタバコを吸っている、イメージが良くないのでは。ある程度の整備が必要ではないか。横浜運輸区のテレビが小さく見にくい。駅では困った事があれば用意してくれる。乗務員区は出来ない。柔軟に対応するべき。
- (会社) 社員の声として挙がっていない。小さくても情報が取れるので変えないと聞いている。

**ゆとりのある業務が安全・サービスレベルの向上に繋がる！
実施日ありきではなく現場の声を反映し不安解消に努めるべきだ！！**